鈴鹿市立桜島小学校　国際教室での教科学習の取組

第１学年　国語科学習指導案

１．単元名　　みんなに　つたえよう
　題材名　　「みぶりで　つたえる」

２．単元目標

- みぶりのはたらきに気をつけて、ことばや気もちを伝え合うことができる。
- 友だちの話を注意深く聞いたり、ことばを正しく聞き取ったりしてゲームやクイズを楽しむことができる。
- みぶりの特徴をとらえながら、事柄の順序などを考え、内容の大筋を読み取る。
- みぶりとことばのつながりに気をつけて音読することができる。
- 自分の考えが明確になるように、簡単な文で書くことができる。

【日本語の目標】

- みぶりのはたらきがわかり、みぶりを使って気もちを伝えることができる。
- 「みぶり」ということばの意味がわかる。
- ことばのまとまりを意識しながらすらすらと音読できる。
- 既習のことばや漢字を使って簡単な文を書くことができる。

３．児童について

入学当初から、国語の時間に取り出しをしてきた１２名の子どもたちである。日本語の会話は支障なくでき文字の読み書きもできる児童、日本語の会話には支障がないが文字の読み書きに時間を要する児童、日本語の会話はあまりできないが文字の読み書きはしっかりできる児童など、様々なレベルの児童の集まりである。

「聞く」については、ＪＳＬバンドスケールのレベルが１～５とばらつきはあるが、しっかり聞いて質問の意味がわかって適切に答えられる児童もいれば、質問の意味が分からず友だちの答え方を聞いているだけの児童もいる。

「話す」については、日常会話に支障のない児童がいるほか、日本語の語彙数が少ない児童もいる。授業の中で友だちの意見を聞きあったり、発表を模倣したりしてことばの使い方や発表の仕方を学び合い、少しずつ語彙を増やしている。また、在籍学級で学んだことばで友だちのことを伝えようとする姿も見られる。

「読む」については、教科書の音読で、一人読みをするときは「指差し読み」（文字読み）をし、指でさした文字と声に出した音とが一致するようになってきた。また、「はさみ読み」（ことば読み）では、ことばを意識して読めるようになってきた。一斉読みをするときは、友だちの読みを聞きながら声を合わせて読めるようになってきた。難しい表現や語彙については、動作化や体験学習を取り入れることで少しずつ理解ができるようになってきた。また、教師の発問に対して教科書の叙述を根拠にして答える児童が増えてきた。

「書く」については、エスペランサに来ると先ず「おはようカード」を書く。４月当初は、数字の読み方や書き方、日付やお天気の言い方などを指導した。ひらがなを学習し始めたころから、「きょうのべんきょう」欄に「こくご」と書くことができるようになり、ひらがなを全部覚えた６月からはその日の時間割を書きながらひらがなを定着させていった。さらに、９月か

らは、スマートボードに映し出された質問を自分で読み、自分で答えを書くようになっていった。たずねられていることの意味がわかり、答えの書き方を覚えるまで毎日同じ質問にした。

Ａさん・・・国籍「ペルー」　家庭内言語　「スペイン語」

「聞く」　ＪＳＬバンドスケール　レベル５

・日常会話に支障はないが、学習における日本語の語彙が少ないため，細部を聞き逃すことがある。

「話す」　ＪＳＬバンドスケール　レベル４

・日常会話に支障はない。しかし、日本語でもスペイン語でも知らないことばがあり、説明に時間がかかる。

「読む」　ＪＳＬバンドスケール　レベル４～５

・音読はすらすらでき、絵を参考にしたり読み返したりして，内容を読みとろうとする。しかし、算数での文章題の理解が難しい。

「書く」　ＪＳＬバンドスケール　レベル３～４

・自分の書きたいことを簡単な文で書き表すことができるが、助詞を間違えたり拗音や長音がうまく書けなかったりする。

（以下　Ｂさん～Ｌさん　略）

「はたらくじどう車」では、ことばの途中で改行されているところがあり、語彙の少ない子には、どこで区切って読めばいいのか分からない箇所があった。例えば、「はしご」と２行にわたって表記されていることばの読みで、「ワシゴ」と発音する子が何人かいた。「はしご」という日本語の意味が理解できず、助詞の「は」と混同したためである。「みぶりでつたえる」は語句の途中改行が頻繁に行われているので、初めてリライト教材を使って学習させることで日本語の読み方に慣れさせ、内容の理解を図りたい。

４．本時の指導

（１）　目標

【国　語】・「うれしい」「たのしい」「かなしい」「こまった」などの気もちは、みぶりで表す方がことばよりもよく伝わることがわかり、みぶりを使って自分の気もちを伝えることができる。

【日本語】・どんな時に「うれしい」「たのしい」「かなしい」「こまった」などのみぶりをするかをグループで話し合い発表することができる。

・気持ちを表す時は、みぶりを使った方がよく伝わることが分かる。

（２）　展開

学　習　活　動	支　援　や　留　意　点	日本語表現
１．前時までの学習を振り返る。	○1～3で学習したみぶりのはたらきやよさについて思い出させたい。 ○前時までにまとめたみぶりについての役割を書いた短冊を貼って確認する。	
２．段落4を音読する。	○リライト教材を使う。	

・一人読み ・一斉読み ・隠し読み	○一人読みでは,「文字読み」をすることで指差した文字と音を一致させたい。 ○一人読みでの「はさみ読み」を徹底させることでことばを意識して読ませたい。 ○一斉読みでは、友だちの読みを聞きながら声を合わせて読ませたい。 ○日本語の発音やリズムに気をつけて読ませたい。 ○スマートボードで隠したことばを確認しながら読ませたい。	
3.「きもちをつよくあらわすみぶり」について、発表する。 ＊「うれしい」「たのしい」「かなしい」「こまった」ときは、どんなときかなあ。 ＊どんなみぶりをしよう？ ＊発表の仕方を話し合おう。	○どんな時にどんな気持ちになるか、前時にワークシートに書いた自分の考えをもとに話し合わせたい。 ○４人１グループで考えを話し合わせ、「きもちをあらわすみぶり」を考えさせたい。 ○発表の仕方についても話し合わせ、練習させたい。 ○話し合いの時にグループごとにまわり、発表の仕方が分からない場合は自分の体験をもとに身ぶりを考えさせ、動作化させたい。 ○大きな声ではきはきと発表させたい。	○～したときに･･･きもちになります。 ○～したときのみぶりです。 ○今から・・・グループの発表をします。 ○これで・・・グループの発表を終わります。
4.「きもちはみぶりであらわすほうがよくつたわる」ことを確認する。	○学習した「みぶりのよさ」について、本文の叙述をもとにまとめたい。 ○時間があれば、「このように」以下の文をワークシートに書き込ませたい。 ○書き込みをするときは、声を出しながら文字を書かせたい。 ○書いたことばをリライト教材と照らし合わせて確かめさせたい。	

（3） 本時の観点

【国　語】・「きもちをよくあらわす」みぶりについて、動きやはたらきについて読み取り、みぶりを使って気もちを伝えることができたか。

【日本語】・どんな時に「うれしい」「たのしい」「かなしい」「こまった」などのみぶりをするかをグループで話し合うことができたか。

・大きな声で、はきはきと発表することができたか。

・自分の伝えたいことを「みぶりをつかって」表すことができたか。

JSL バンドスケール（JSL Bandscales）＊1

JSL ＝ Japanese　as　a　Second　Language（第二言語としての日本語）

■JSL バンドスケールとは何か

JSL バンドスケールは、「日本語を第一言語としない子どもたち」（JSL 児童生徒）の日本語能力を把握するために開発された「判定基準（ものさし：scales）」で、その「ものさし」は一冊の冊子にまとめられています。

このバンドスケールは、子どもの日本語能力をきちんと把握し、その言語能力にあった日本語指導を考えるために早稲田大学大学院日本語教育研究科の川上郁雄研究室が開発しているものです。

■どのように使用するか

この「ものさし」は、小学校低学年・小学校中高学年・中学高校別になっています。それぞれ聞く・話す・読む・書くの４領域ごとに、小学校では７段階、中学校では８段階のレベルに分かれています。（「レベル１」が初めて日本語にふれる段階です。）

実際にＪＳＬ児童生徒の日本語能力を判定する場合は、その子どもの学習の様子や先生とのやり取り、クラス活動や遊びの様子などをよく観察し、そこで見られる言語使用の特徴がＪＳＬバンドスケールのどのレベルの特徴と合うかを検討し、そのときの日本語能力のレベルを判定するもので、ペーパーテストや検定試験ではありません。

■　このバンドスケールは言語能力をどう捉えているか

第二言語能力とは、母語で得た言語能力や言語知識、コミュニケーション体験、および第二言語の知識などを使ってコミュニケーション活動を行おうとする全人的な能力をいいます。

話し手が自己の置かれている状況や直面している場面、話し手と聞き手の関係性を把握し、適切と考えられる方法で聞き手や周囲の人々との関係を取り結ぶために第二言語を使用する能力といえます。

言わば、日常生活の人間関係の中で発揮される第二言語の能力のことで、単に漢字や単語の習得だけを意味するものではありません。

＊１　　早稲田大学大学院日本語教育研究科川上郁雄教授のホームページに掲載されています。（http://www.gsjal.jp/kawakami/jslbandscale.html）

鈴鹿市立桜島小学校　在籍学級での教科学習の取組

第２学年国語科学習指導案

１　単元名　　思いを見つめて読もう
　　題材名　　「きつねのおきゃくさま」

２　単元目標
・場面や登場人物の様子を考えながら読み、作品のおもしろさや楽しさを味わうことができる。
・話を読んで考えたことや思ったことをわかりやすく話すことができる。
・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くことができる。
・登場人物の様子や気持ちを考えながら、文章を読むことができる。
・きつねのしたこと、相手が返してくれたことを書くことできる。
【日本語の目標】
・「〇〇さんと同じで･･･だと思います」と発表することができる。
・知っている言葉、知らない言葉を意識して聞くことができる。
・知らない言葉の意味を尋ねることができる。
・地の文、会話文の違いを意識して読むことができる。
・句読点に気をつけて、自分の考えを書くことができる。

３　児童について
児童の日頃の様子を見ていると，話し言葉の単語化・簡略化や思い付きの発言が目立つ。また、話す意欲が先走り、整理していない状態で話そうとしたり、緊張したりして、内容を忘れてしまうということも度々ある。さらに、順序立てて話をしなければならない場面では、ほとんどの児童が自分の思いこみで話すことが多く、聞き手になかなか伝わらない。そのためか、聞く態度についても定着していない児童が多い。話す人を見るという基本的な動作ができず、聞き漏らしや、私語をしてしまう。

そこで、４月より「話し方・聞き方」の基礎・基本の定着を図り，日常での継続指導に取り組んできた。話し方については、①相手の顔を見て話す②大きな声で話す③最後まではっきり話すの３点を、聞き方については、①相手の顔を見て聞く②集中して聞く③最後まで聞くの３点を重点的に指導している。

また、多くの児童が安心して発言できるよう、だれでも答えられるような発問やパターン化された発問を多く取り入れている。すべての児童が発言するまでには至らないが、４月当初に比べ、挙手をし、友だちの前で意見を言える児童が増えている。しかし、聞く態度については課題が多く、特に授業で発表に参加しない児童は、授業の傍観者や外野という意識ができてしまうのか、正しい姿勢を維持して友だちの発表を聞くことができていない。

生活科の学習で、校内を１年生に案内するために、各特別教室の説明をクラスで考えた際、エスペランサ教室（国際教室）がどんなところか、うまく言葉にできない児童が多くいた。そこで、１学期、４、５名のグループに分かれ、エスペランサで「すみれとあり」を同学年の通級児童とと

もに学習した。各児童１時間のみのエスペランサでの授業であったが、通級児童のいきいきと授業を受ける姿に驚くとともに、日本語学習（質問された内容に即した応答の文章を書く（おはようカード）など）が、自分たちが考えていた以上に難しいものだと感じたようだった。

【国際教室通級児童について】

Ａ・・・国籍「ペルー」　　家庭内言語「スペイン語」

「話す」　ＪＳＬバンドスケールレベル４～５

・語彙は増えているが、言語表現は限られており、複雑な内容は表現が難しい。

「聞く」　ＪＳＬバンドスケールレベル５

・具体物や言い返しがあったり、考える時間があれば、学習内容を理解できる。

「読む」　ＪＳＬバンドスケールレベル３

・短いことばや文章を、内容の大筋をヒントにして読むことができる。

「書く」　ＪＳＬバンドスケールレベル２～３

・助詞・促音・長音が抜けたり、清・濁音の区別が不正確だったりする。

Ｂ・・・国籍「ブラジル」　家庭内言語「ポルトガル語」

「話す」　ＪＳＬバンドスケールレベル４～５

・クラスの話し合いなどで、自分の考えを言うことができる。

「聞く」　ＪＳＬバンドスケールレベル５

・学習中に複雑な言葉や概念が含まれるときは、理解するのは難しい。

「読む」　ＪＳＬバンドスケールレベル４

・口頭発表のために自分で書いた文は、ひとりで読むことができる。

「書く」　ＪＳＬバンドスケールレベル５

・学年と年齢に応じた内容と範囲の中で、ほとんどのことばや文章を書くことができる。

普段、上記の２名は国語の授業をエスペランサで学習している。エスペランサでは１学期に「ひっこしてきた　みさ」「すみれとあり」の２単元をリライト教材を使って学習した。ＡＢが使用するリライト教材に興味をしめす児童がいたため、２学期、通級児童が使用しているリライト教材をクラスで紹介した。音読を苦手とする児童、リライト教材に興味をもった児童１９名が、「さけが大きくなるまで」の単元でリライト教材を使用した。「読みやすい」と感想を伝えてくれる児童や「自分の本」として愛着を持って音読にはげむ児童の姿がみられた。そのような児童に触発されてか、今回の「きつねのおきゃくさま」の学習では、通級児童含め２６名の児童がリライト教材を活用している。

「きつねとおきゃくさま」はＡとＢが２年生になって国語科を教室で学習する初めての単元である。Ａ、Ｂともに、算数科の授業では、発問に対し、自分の考えがまとまるとすすんで挙手をし、発表することができる。本単元では、エスペランサで先行して学習することで、より自分の考えがまとめやすくなり、自分の思いと友だちの思いを比べることができればと思っている。

4　本時の学習

（1）　目標

【国語科】・たたかおうとしているきつねの気持ちを想像し、伝えることができる。
・友だちの発表を最後まで聞く。

【日本語】・「言うなり、きつねは飛び出した」の表現を知ることができる。

（2）　展開

学習活動	支援や留意点	日本語表現
○前時までの内容を思い出す。 ○４の場面の音読をする。 ○４の場面の目あてをつかみ、考える。	・きつねの気持ちを中心に聞く。	
きつねの気持ちを考えよう		
・どこで起こった出来事か考える。 ・誰の話した言葉か考える。 ・「･･･きつねがいるぞ」と言われ、おおかみがなんと返事をしたか考える。 ・おおかみの返事をクラスで統一する　→ワークシート ・おおかみの返事を聞いたきつねのセリフを考える。 →ワークシート ・グループ内で発表しあう。 ○セリフを発表する。 ○きつねの様子や気持ちを想像しながら音読する。	・動作化を取り入れながら、考えさせる。 ・ワークシートを書かせる前に、数人に意見を聞き、例文（またはキーワード）を板書しておく。 ・最初に一斉で音読。２回目以降は、個々に音読させる。	◇言うなり、きつねは飛び出した。 ◇ゆう気がりんりんわいた。

（3）　本時の観点

【国語科】・たたかおうとしているきつねの気持ちを自分なりに想像し、伝えることができたか。

【日本語】・「言うなり、きつねは飛び出した」の表現を知ることができたか。